



2016 年度 航空局への空港要請 主な答弁

今年度も航空安全会議の要請活動に AGE 委員会が参加しました。空港分野では年末の安全アンケートを基に要請書を作成しています。今期の要請・答弁の中で主な項目を紹介します。

(要請先：国土交通省航空局、東京航空局、大阪航空局、東京国際空港長)

1. 主な回答内容

【新千歳空港】

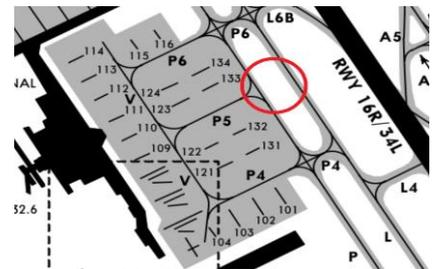
- (1) A1 TWY における Hold Short Line の 2 本運用を見直し、1 本運用とすること
⇒ 2 本運用は必要という認識。誤進入が多く発生しているのは把握している
- (2) 現在の LED Light になって以降、雪が融けず TWY の視認が困難となるケースが続発している
⇒ 従来型灯火へ戻すのは困難。LED 化した直後の H22 年度に調査を行い問題がなかった

【庄内空港】

- (1) 滑走路の延長もしくは EMAS (Engineered Materials Arresting Systems) の設置
⇒ 県管理空港から昨年も山形県には伝えているが、滑走路延長については用地買収の必要性があり困難である

【羽田空港】

- (1) TWY に関わる B の呼称方法について「ブランチ」という呼称を廃止すること
⇒ 東京オリンピックに向け新規誘導路の整備計画がある。誘導路名称においても変更の検討をする時期にあると考えている。今後「ブランチ」を使用しない名称も検討していきたい
- (2) 地上標識周辺の草刈り作業の時期
⇒ 空港全体で計画的に行っている。見えづらい場所があるようなら優先的に行っていくので要望を上げていただきたい
- (3) 現在の誘導路 P5 を誘導路 L まで延伸すること
⇒ 必要性が認められた。今年度中に工事に着手する予定



【福岡空港】

- (1) 新ターミナルビルに VDGS を設置すること
⇒ VDGS を設置する計画である
- (2) TWY E2 における Stop Aiming Lights を設置すること
⇒ E1 にポールを設置し評価運用を行った。E2 については引き続き検討していく

【大分空港】

- (1) 誘導路 T0 の名称は IFALPA Policy に則して T1 とし、その他の誘導路名称もそれに合わせて変更すること
⇒ 大分空港事務所に確認して対応を検討していきたい

【鹿児島空港】

- (1) 進入表面及び転移表面に抵触している樹木や工作物が多数存在していることから、速やかな除去を実施すること
⇒ 最低気象条件に影響があることは理解しており、優先して実施していく考えである

【那覇空港】

- (1) 滑走路増設に伴う滑走路誤進入対策の明示、IFALPA Policy に基づいた誘導路名称の設定
⇒ 誤進入対策として RWSL を設置し、誘導路名称は IFALPA Policy を考慮して進めていきたい
- (2) RWY36 ファイナル直下左下の野球場照明が、夜間時にパイロットにとって視認障害になっているという声が挙がっている
⇒ 当該施設の照明の角度を下げる、一部点灯させないなど対応を行った

【空港全体】

- (1) 空港における安全対策向上のため、日本において Runway Safety Teams を導入すること
⇒ 安全に寄与するものなので、関係者と調整して Runway Safety Team の導入に向けて検討していきたい。東京空港事務所ではすでに研究を始めている
- (2) パイロットと救難・救急隊員が直接交信出来る体制の確立
⇒ 以前からの検討事項である影響する諸規則上の課題、および交信機器等必要なインフラの課題を整理のうえ検討する
- (3) 東京国際空港、中部国際空港、関西国際空港においては、空港管理者が大型機の事故対策に対応出来る独自の救助用船舶を所有し、それを使用した訓練を実施すること
⇒ 現状で十分という認識。東京国際空港緊急計画で関係機関の構成・活動内容で体制は確立されている。羽田空港では 10 月に海上事故を想定した訓練を行う予定。その他各空港でも訓練を実施

2. 要請活動を振り返って

今期の要請活動では、羽田空港の P5 延長や那覇空港の IFALPA Policy に則った誘導路名称、Runway Safety Team 導入検討など、一部に評価できる前進回答がありました。一方、今回の答弁でも、私たちの要請に対して「パイロットの意見を聞いて決めたことなので問題ない」という発言が多くありました。

航空局が空港整備を行う際、会議に出席している航空会社の社員に意見を聞くことがあります。しかし、その出席している社員が本当にパイロットなのか、また多くの現場の乗員の意見を取り纏めてきているのかという疑問があります。私たちが毎年現場の声として挙げている要請事項よりも、航空会社の意見が優先されながら空港整備がなされている実態は残念でなりません。

今回はスライドを作成して問題点を視覚的に訴えること、IFALPA Policy に基づいた誘導路名称案を自ら発案し添付図として提出する、等の工夫を行い、これらは一定の効果があったようです。来期はさらに改善を加え、より効果的な要請方法について、航空安全会議と共に考えていきたいと思えます。

この対官要請活動は、実際に現場で働く私たち労働者の声を航空当局に届けるとても貴重な機会です。皆様の声を集約するために、ALPA Japan/日乗連ではホームページで空港に対するご意見を常時募集しています。今秋もアンケートを WEB 上で実施する予定です。これからも ALPA Japan AGE 委員会への活動に対するご理解とご協力をお願い致します。

以上

